産　業　建　設　委　員　会

令和７年２月28日(金)
議会運営委員会終了後
　　時　　分　～　時　　分
全　員　協　議　会　室

【委　員】川上委員長、田畑副委員長
　　村木委員、大谷委員、小川委員、佐々木委員、~~牛尾委員~~
【執行部】砂川副市長、佐々木産業経済部長、久佐産業経済部参事、大屋商工労働課長
　　坂田商工労働課副参事
【事務局】大下書記

議題

１　執行部報告事項

（1）浜田駅周辺エリア賑わい創出に向けた現状分析及び調査事業について

【商工労働課】

２　その他

令和７年２月２８日
産業建設委員会資料
産業経済部商工労働課

浜田駅周辺エリアにぎわい創出に向けた現状分析及び調査事業（概要版）

交流文化機能の検証・・・・・・・・・・・・・・・1

にぎわい機能の検証・・・・・・・・・・・・・・・4

浜田駅周辺のまちづくり構想の検討・・・・・・・7

2025（令和7）年1月

交流文化機能の検証

【くつろぎ空間の検証】

- 子育て世代がよく行くところ

➢ 子育て支援センター、ゆめタウン、お魚市場等
（理由）
授乳室、子どもの遊び空間や買い物、清潔感など

（風のえんがわ）

- 県大生の駅周辺への需要

➢ 鉄道やバス利用時
→ちょっとした待ち時間があるが、心地よい居場所が少ない
➢ 居住している学生も多い
→面白いイベント等があればいくと思う

- にぎわい創出に必要なこと

➢ 大人も子どもも安心して過ごせるカフェ（子育て世代）
（風のえんがわ、蔵庭など）
➢ 夜カフェ、チェーン店など
高齢者や地域の人が子どもを見守れる交流スペース
➢ 公民館などのワンコインカフェ
➢ イケサンパークのような施設があるとよい。
（芝生ひろば、こどもの遊び専用エリア、喫茶店、屋台など）
※小さい子どもを遊ばせるのは室内がよい

（イケ・サンパーク）

- 駅周辺地域の課題

➢ 気軽に駐車できるスペース（時間貸し駐車場）が少ない
（無料で駐車できるスペースがあると行きやすい）
➢ 駅周辺は飲食に訪れることが中心、それ以外の目的施設は少ない
→既存の目的施設：病院、石央文化ホール（イベント）など

交流文化機能の検証

【観光入込客】

- 浜田市の主な観光施設の入込客数としては、アクアスを中心とした石見海浜公園、道の駅ゆうひパーク浜田、はまだお魚市場が１０万人を超えている。
- 温泉地を訪れる人も比較的多く、約３～８万人が訪れている。

【イベント等の利用者数】

- イベント系では浜田港周辺で開催されている浜っ子夏まつり（花火大会）やBB大鍋フェスティバルの来訪者が多くなっている。しかしこれらの多くは市民が多いと想定される。
- 統計資料はないが、７月下旬に銀店街を中心に神楽フェスタが開催され多くの市民が訪れている。
- 各種企画展などが開催されている世界子ども美術館も約4.5万人の利用者があり、市内では比較的集客力がある施設となっている。

神楽フェスタ

浜っ子夏まつり

BB大鍋フェスティバル

浜っ子春まつり

主な観光施設及びイベント利用者数	令和５年
石見海浜公園	516,770人
道の駅ゆうひパーク浜田	219,611人
はまだお魚市場	177,615人
道の駅ゆうひパーク三隅	83,684人
浜田市世界こども美術館	45,653人
湯屋温泉（きんたの里）	82,670人
美又温泉	72,089人
旭温泉	27,354人
浜っ子春まつり	2,000人
浜っ子夏まつり	15,000人
BB大鍋フェスティバル	10,000人
三隅つつじ祭り	4,109人
浜田の夜神楽週末公演	1,991人

出典：島根県観光動態調査

【浜田市の宿泊者数】

- 浜田市の宿泊客数は約２８万人程度である。過年度の調査で駅周辺のホテルにおけるアンケート調査では、観光目的は約３割程度であり、観光宿泊数は８万人程度と推測される。

交流文化機能の検証

【駅周辺の交流施設】

- 市内で最も大きい施設は、「石央文化ホール」で延床面積が約5,700㎡あり、約1000人の観客収容ができるホールがあり、各種のコンサートや演劇などが開催されているとともに、神楽大会なども開催されている。

- 浜田駅周辺エリアに近い所では、県立の施設ではあるが、「いわみーる」があり、多数の研修室や会議室、視聴覚室があり、各種の講習会や会議、展示会などが開催できるとともに、体育室もあり、軽運動などの運動利用の他、やや規模の大きな展示会などのイベント開催も可能な施設になっている。

- 浜田駅周辺エリアでは、この他、まちなか交流プラザや前述した石見まちづくりセンターでもやや広い会議やイベントなどが開催できるホール（100人未満）はあるが、200～300人程度の中規模なイベントやコンサートなどが開催できる施設はない。

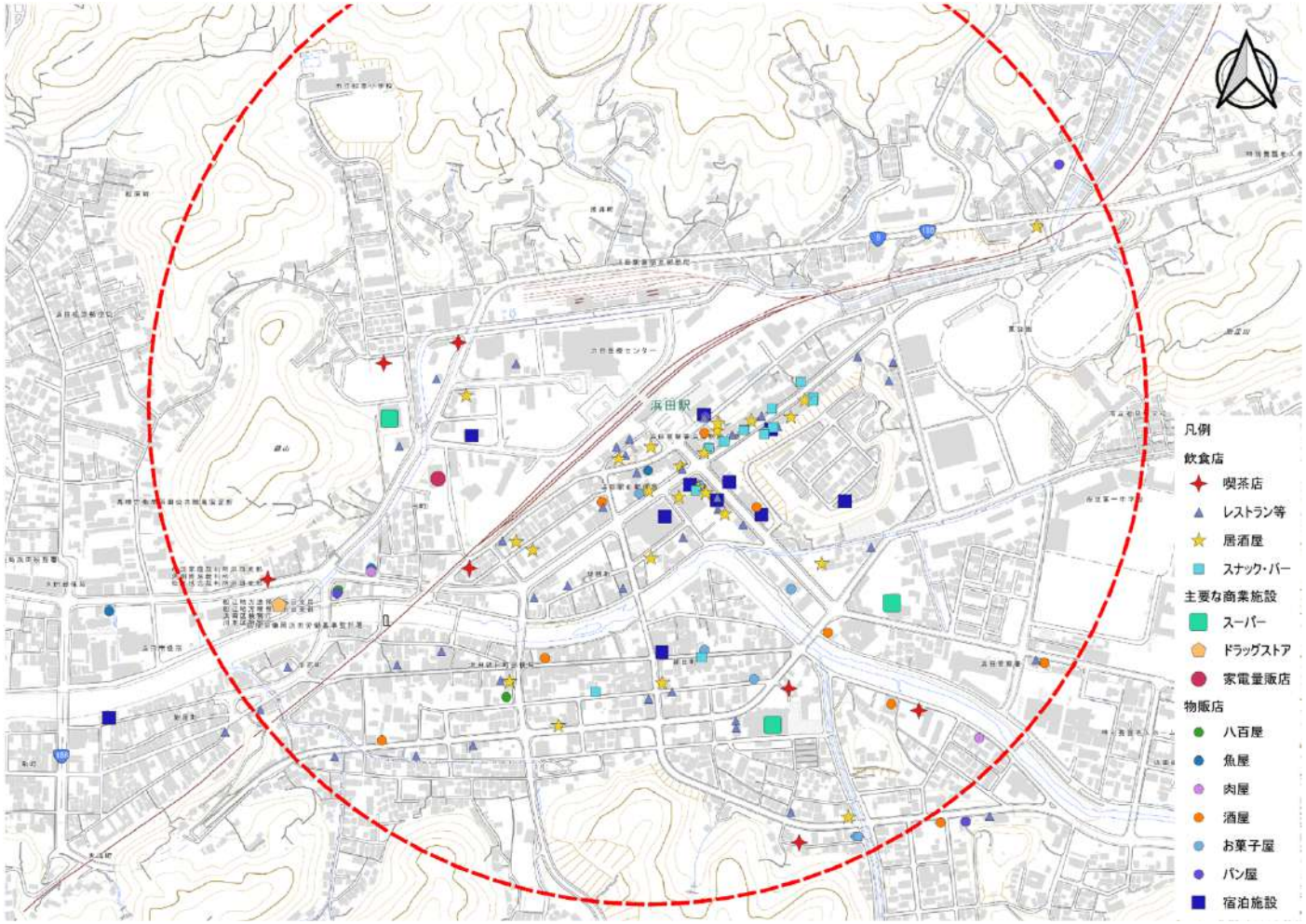
【マルシェ等の開催】

- 前述の全市的な取組の他、各まちづくりセンター単位でも、各種祭りが開催されており、200～300人の集客がある。
- 浜田市におけるマルシェの開催としては、アクアスや石見海浜公園で近年積極的に開催されている。

にぎわい機能の検証

【商業施設等の状況】

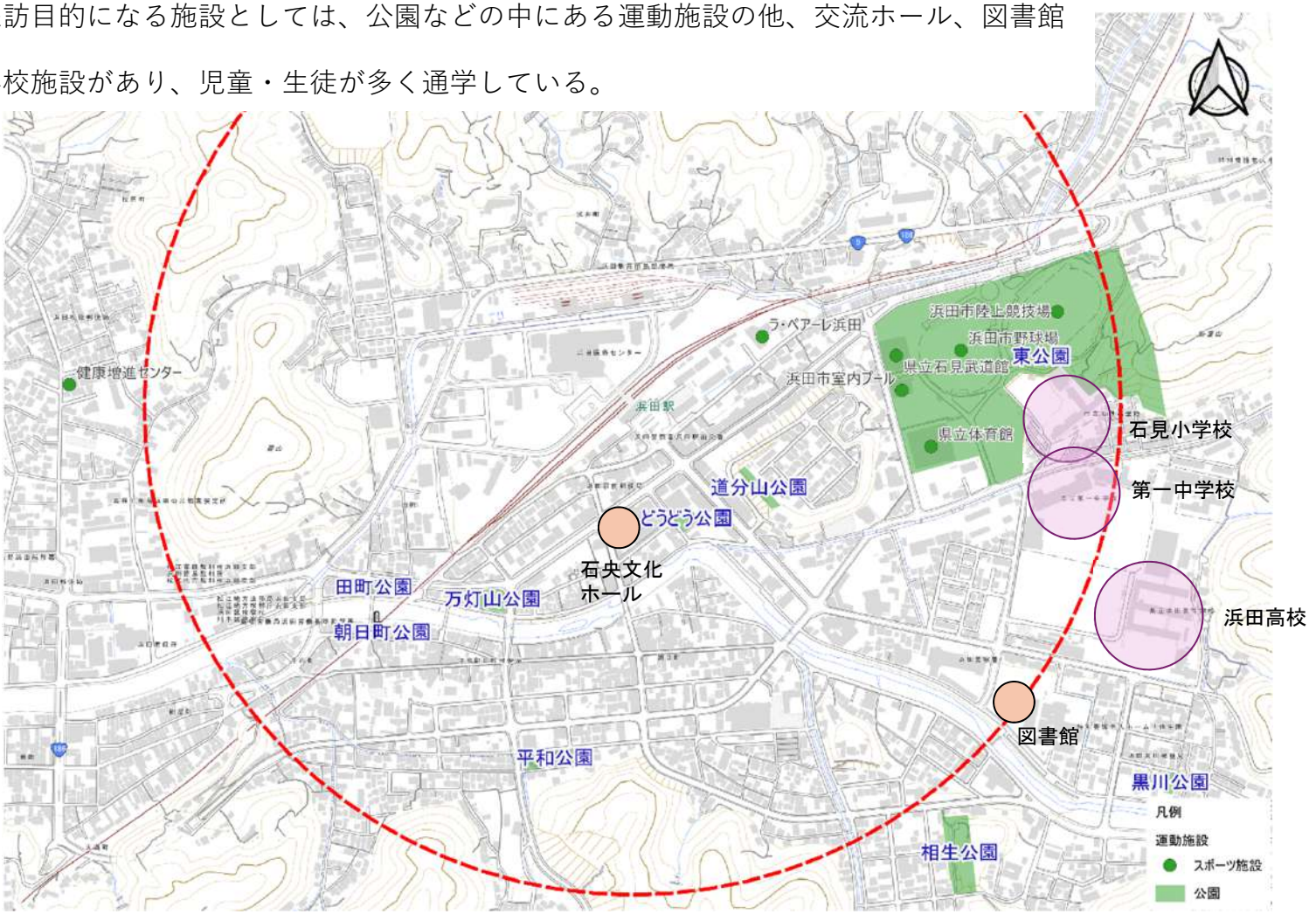
- 駅周辺には、数多くの飲食店が立地しており、市民や来訪者（宿泊者）へのサービスを提供している。
- スーパーも３か所立地しているとともに、食料品店やパン・お菓子などの物販施設もある程度立地しており、駅周辺の生活を支える施設になっている。
- また、宿泊施設も多く立地しており、市全体の宿泊容量1973人（浜田のお宿参照・ケビンなどは除く）の62.8％を占めている。



にぎわい機能の検証

【公園緑地等の公共施設状況】

- 浜田駅から500m東側に東公園があり、陸上競技場や野球場、テニスコート、体育館、プール等の運動施設が整備されおり、これらの競技大会時には多くの来訪者がある。また日常的にも安全に散策やウォーキング、犬の散歩が楽しめる場所としても利用されている。
- その他は小規模な公園が散在している状況で、近隣以外から利用されているような公園は見受けられない。
- また、来訪目的になる施設としては、公園などの中にある運動施設の他、交流ホール、図書館がある。
- さらに学校施設があり、児童・生徒が多く通学している。

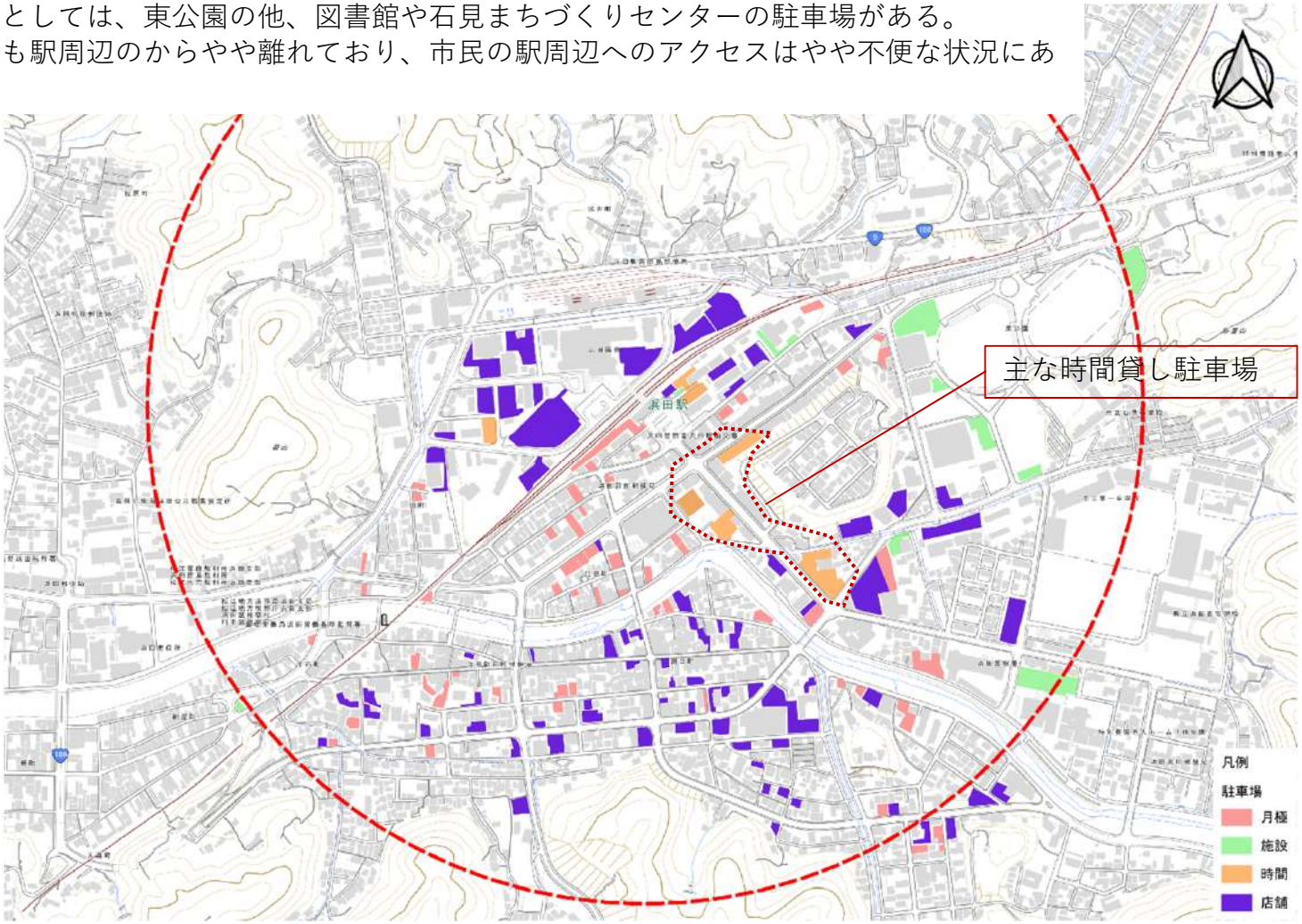


にぎわい機能の検証

【駐車場等の状況】

- 駅北側は浜田医療センターの駐車場をはじめとして、事業所や店舗専用の駐車場がほとんどになっている。
- 駅南の浜田川までのエリアについては、東通りや昭和通り沿線などの一部に時間貸し駐車場がある他は、月極駐車場が多くなっており、居住や通勤及び店舗用駐車場としてされている。
- 浜田川から南のエリアについては、店舗専用の駐車場が多くなっている。大規模なものはスーパーなどの駐車場である。

- 公共の駐車場としては、東公園の他、図書館や石見まちづくりセンターの駐車場がある。
- いずれにしても駅周辺のからやや離れており、市民の駅周辺へのアクセスはやや不便な状況にある。



浜田駅周辺のまちづくり構想の検討

【賑わい創出に向けた課題】

- **市民が目的として訪れる施設や場所が少ない（飲食以外には行く用事がない）**
- **気軽に利用できる駐車場が少ない（市民も観光客も自家用車アクセスが基本）**
- **まちの連続性や連携性が乏しい（歩きやすい環境づくりが必要）**

【賑わい創出のための活用が望まれる空間】

- にぎわい創出に向け、機能充実を図るためのタネ地としては以下の所（改善できる箇所）があり、これらなどを活用しながら、にぎわい創出に向けた取組が必要である。
- 現在平面駐車場が多いが、まちなみを分断している駐車場などは可能であれば、立体化を推進し、駐車場不足の改善を図っていくことも望まれる。

浜田駅周辺のまちづくり構想の検討

【浜田駅前周辺のまちづくりの方向性】

- **市民が日常的に集い、にぎわうまち**
  （飲食、運動、憩い、学び、体験、交流など）

- **浜田市の玄関口の一つとして、浜田らしさが感じられるまち**
  （JRや高速バスの発着点として、浜田らしさをPR）
  - 石見神楽、海鮮、港など

- **市民や来訪（宿泊）者などが夜でも楽しめるまち**
  （夜の魅力的な飲食や見どころ（居場所・アトラクション・景観・イベントなど）
  →市民が夜出歩いて、まちを楽しむように行動変容が必要

都市型マルシェ（福岡市）

石見神楽PR館（松江市）

イルミネーション（松江市）

浜田駅周辺のまちづくり構想の検討

【主なにぎわい拠点エリアのポテンシャルと土地利用の方向性】

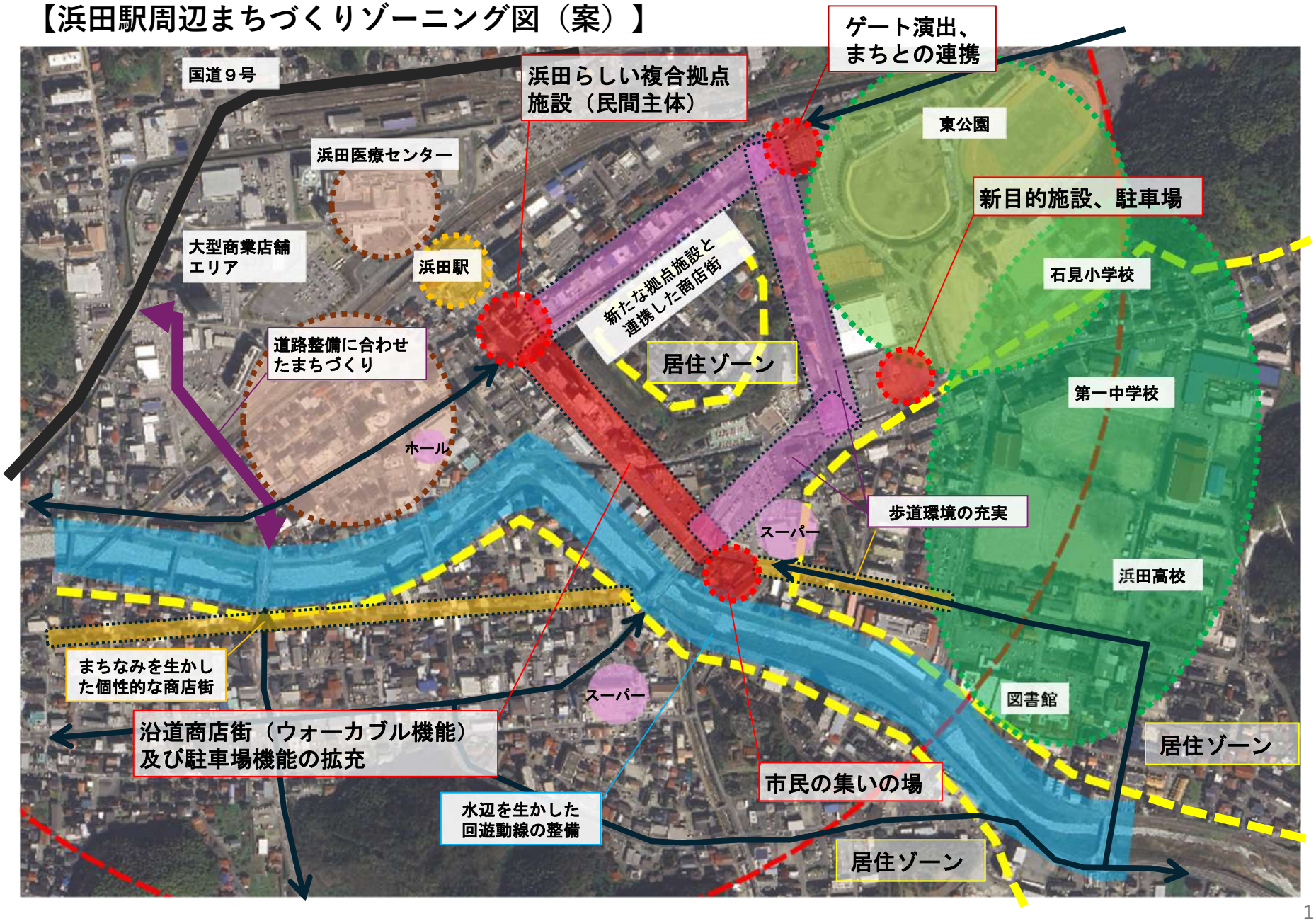
主なにぎわい拠点エリア	敷地の現状と特性
旧ベビーランド跡地	• 旧ベビーランドは解体して更地状態で、隣接しては時間貸し駐車場になっている。 • 旧岩多屋は、現在解体中。 • いずれの敷地も明確な土地利用は定まっていない。 • 駅からすぐの所にあり、宿泊施設にも近い。 • **浜田の玄関口の一つにふさわしい、浜田らしい多様な人が利用する複合拠点施設（民間主体で情報発信・商業など）としての立地が望まれる場所**
三桜酒造跡地	• 土地開発公社で取得、現在解体中。 • 駅や朝日町方面からビスタ景観の正面の場所（シンボリックな空間要素がある）。 • 駅からは約450ｍの位置にあり、近接してスーパーが２店舗立地している。中高生の通学経路となっている。 • 更に浜田川沿い350ｍ程度の所に図書館がある。 • 市の中心部で各種のイベントなどができる場が少なく、日常的に市民が訪れる施設に近接しており、**市民の集いや憩いの場としての整備が望まれる場所**
東公園（NTT西日本社宅跡地など）	• NTT西日本の社宅跡地で、民間の商業施設の出店計画があったが、通学路の交通量の増大を懸念し、国スポ開催時の駐車場などの用地として活用することを想定し、土地開発公社への売却を要望していた。 • その後の市の活用方針については、今後の検討となっている。 • 市街地中心部の駐車場不足の解消や上記同様、**市民の憩いの場や新たな目的施設（健康づくり、アーバンスポーツ、交流等）の整備が望まれる場所** • 「まちとの連携強化」によりにぎわい創出につながる公園計画の再編の検討

✓ 観光客にとって強力な目的施設（コナン、鬼太郎、出雲大社など）がない現状で、その創出（観光客に主眼を置いた整備より）を考えるより、市民が集い、楽しんでいる姿を発信し、市外の人も訪れ、にぎわいづくりにつながっていくものと考えれる。

✓ またこれらの３つの拠点を連携するウォーカブルなまちづくりを推進し、エリア全体で賑わい創出を目指す。

浜田駅周辺のまちづくり構想の検討

【浜田駅周辺まちづくりゾーニング図（案）】



浜田駅周辺のまちづくり構想の検討

【浜田駅前周辺のまちづくりの方向性と拠点エリアの機能充実のイメージ】

まちづくりの方向性	機能充実の例
市民が集う場 飲食、運動、憩い、学び、体験、交流など	【既存施設等】 • 飲食・買い物：銀天街、スーパー • 運動：東公園（体育館、武道館、プール、野球場、陸上競技場等）、ラペラーレ浜田（プール、ジム） • 学び・体験：図書館、学校、郷土資料館、石見まちづくりセンター、まちづくりセンター • 交流：石央文化センター 【望まれている機能】 • マルシェなどが開催できるイベント会場や自由に利用できるまとまった芝生広場など • 中規模な交流ホール（市民の多様な活動の発表の場） • 居心地の良いカフェ、大人も子どもも安心して過ごせるカフェ • 子どもの遊び場（特に雨の日でも過ごせる場所） • 市民が浜田の歴史文化（石見神楽）を体験学習できる場（郷土資料館の機能充実）
浜田らしさが感じられる場	【既存施設等】 • 石見神楽：駅前のからくり時計、ゲートサイン、商店街のサインや石造 • 飲食・物販等：浜田の海鮮や特産品が味わえる飲食店、駅の観光案内所など 【望まれている機能】 • 市民が浜田の歴史文化（石見神楽）を体験学習できる場（郷土資料館の機能充実） • 物産館的な施設（→道の駅やはまだお魚市場にも同等の機能施設がある）
夜でも楽しめる場	【既存施設等】 • 飲食・物販等：浜田の海鮮や特産品が味わえる飲食店 • 夜神楽（現在は三宮神社で実施） 【望まれている機能】 • 夜カフェ • イルミネーション、デートスポット、 • クリスマス、ハロウィンなどのイベント

- 現時点ではまだ車での移動が主体であり、駅周辺エリアに気軽に出かけられるようにするためには、**駐車場機能の充実**が必要不可欠である。
- 拠点エリアの周辺エリア（主に民有地）においては、以下の機能などの充実を図ることでにぎわい創出にもつながっていく（ただし、持続的な立地が可能かの需要検討は別途必要となる）
  - ➢ 居住人口・夜間人口を増やす機能（集合住宅、サービス付き高齢者住宅など、ホテルなどの宿泊機能）
  - ➢ 商業施設（ベビー用品など市外に流出している商業機能など）

浜田駅周辺のまちづくり構想の検討(参考資料)

【拠点エリアへの導入が考えられる施設】

- 前項の機能充実のイメージ例を空間整備という観点から、拠点エリアに導入が考えられる施設を以下に整理する。
- これらの施設を浜田駅周辺、三桜酒造跡地、東公園（NNT社宅跡地や武道館横駐車場等）の拠点エリアを活用し、整備することで、にぎわい創出を目指すものとする。
- なお、整備にあたっては社会実験などにより需要確認、整備や運営にあたっての課題、事業効果などについて検証してから整備を行うことが望ましい。

拠点エリアへ 導入が考えられる施設	施設のイメージ
大きな芝生広場があるセントラルパーク	【市民の集う場】 • マルシェやキッチンカーなどが開催や多様なイベント会場に使える広場 • 日常的には散策や自由な利用（休憩、バドミントン、ボール遊びなど）ができる広場 • まちなかウォーキングのストレッチの場となる広場 • 子どもの遊び場、ちょっとした室内遊び場 • ゆっくり休養できる小洒落たカフェ空間（民間資本の活用） • 公園マネジメント事務局や緑の体験・学習施設など 【夜でも楽しめる場】 • イルミネーション、夜カフェ、デートスポットなど
多目的ホール（中規模） 収容人員200～300人 （屋外ホールも検討）	【市民が集う場】 • 市民の多様な活動の発表（文化祭、芸能、ができるような多目的ホール 【浜田らしさが感じられる場】 • 夜神楽の鑑賞、石見神楽をはじめとする歴史や伝統文化に関する各種のイベントの会場 【夜でも楽しめる場】 • 夜神楽の鑑賞、各種コンサートの開催やイベントの開催など
石見神楽保存伝承施設 ・歴史郷土資料館	【浜田らしさが感じられる場】 • 石見神楽や浜田の郷土資料等について市民や観光客などが、学び・体験できる場
浜田市PR館	【浜田らしさが感じられる場】 • 浜田の観光情報の提供（観光案内所機能、物産館的機能 • 石見神楽に関する情報発信の場（定期公演、関連スポットの紹介など）
駐車場	市民や観光客が集うエリアになっていくには、一定の駐車場の整備が必要となる。

※なお、これらの施設は導入が考えられる施設であって、それぞれ利用ターゲットや利用イメージを検討し、市域の別の候補地を含めた比較など、どこに配置することがふさわしいかを検討する必要がある。

浜田駅周辺のまちづくり構想の検討（参考資料）

【施設の配置検討案】

- 前項の導入が考えられる施設を拠点エリアに配置する複数のパターンの検討と効果や課題の整理

	A案	B案	C案
浜田駅周辺	浜田市PR館（情報発信・物販） 民間が主体になって整備する複合施設の中に設置	浜田市PR館（情報発信・物販） 民間が主体になって整備する複合施設の中に設置	石見神楽保存伝承施設 浜田市郷土資料館 浜田市PR館
三桜酒造跡地	石見神楽保存伝承施設 浜田市郷土資料館 多目的ホール 小公園	セントラルパーク機能 土地利用の再編の中で、市民が日常的に集い、憩うことができる広場空間の整備	セントラルパーク機能 土地利用の再編の中で、市民が日常的に集い、憩うことができる広場空間の整備 多目的ホール
東公園	セントラルパーク機能 土地利用の再編の中で、市民が日常的に集い、憩うことができる広場空間の整備	石見神楽保存伝承施設 浜田市郷土資料館 多目的ホール	駐車場機能の充実
効果	三桜酒造跡地（駅周辺エリアのシンボル空間）に浜田市民のアイデンティティである「石見神楽」の殿堂となる施設を配置することで、市内外にPRすることはできる。市民の集い空間として東公園のリニューアルできれば市民の憩いの場となる（P-PFI的な事業の導入）。	三桜酒造跡地は買い物や通学などの合間の憩い空間としての利活用も想定され、日常的なにぎわいの演出になる。 浜田らしさの演出施設となる伝承施設や多目的ホールも、東公園の駐車場をシェアすることで利用しやすいものになる。	三桜酒造跡地は買い物や通学などの合間の憩い空間としての利活用も想定され、日常的なにぎわいの演出になる。 交通結節点に近接した場所で、充実した石見神楽をPRできれば効果的である。 （駐車場も時間貸し駐車場が比較的便利）
課題	石見神楽保存伝承施設や浜田市郷土資料館の体験学習施設は、それ程多くの集客は望めない可能性もあり、にぎわい創出にはつながりにくい 多目的ホール利用者への駐車場確保が困難で、周辺での駐車場が課題	駐車場と公園機能のバランスが課題。駐車場が大きくなりすぎると広場面積が少なくなり、広場面積などが多くなると利用者の駐車場の確保が課題。 イベント時の駐車場確保 東公園の建蔽率のチェックが必要	浜田駅周辺の拠点エリアは敷地が狭く、多層階になることが想定され、やや利用しにくい施設になる。 公的施設の整備にあたり、費用が増大する。
備考	※駐車場問題から多目的ホールを東公園に付帯させることも考えられる。		

<u>※なお、これらの施設の立地については、主な利用者ターゲットや内容によっては、駅周辺エリア以外でも立地適地があると想定されることから、それらとの比較検討を行い導入施設の内容を検討する必要がある。</u>

・子どもを対象とした施設や文化的な施設→海の見える文化公園（世界こども美術館周辺地）と一体的な整備

・観光客に対する情報発信を主体にした施設→既存集客施設（道の駅、はまだお魚市場等）と一体的な整備

令和７年２月28日
産業建設委員会資料
産業経済部商工労働課

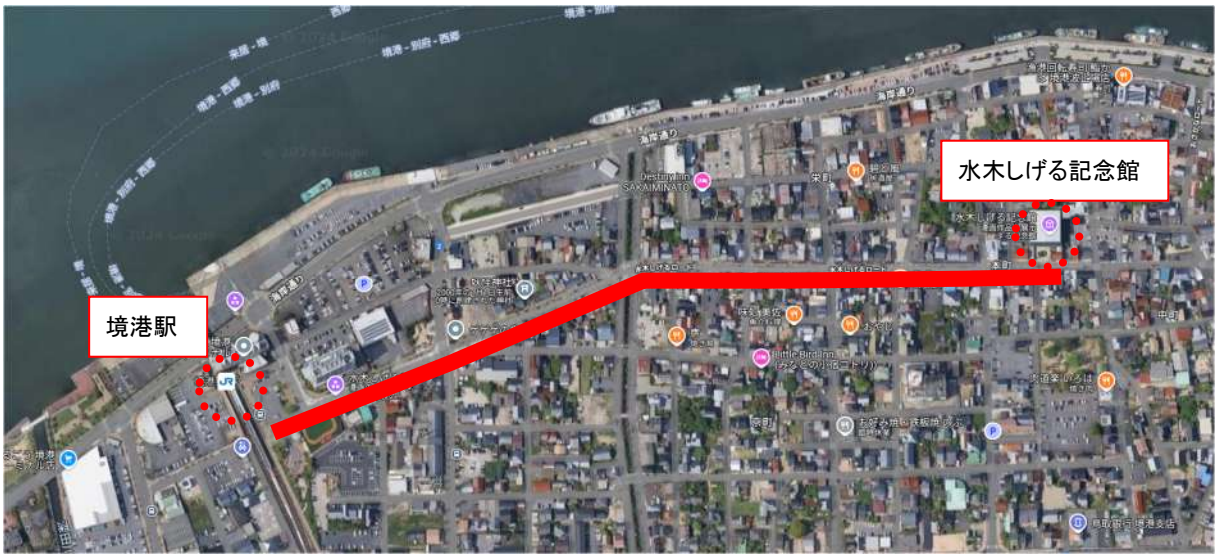
浜田駅周辺エリア賑わい創出に向けた現状分析及び調査事業（他地域参考事例）

1-1. 他地域参考事例の調査

1-1-1. 駅周辺のにぎわい創出に関する事例

1）境港駅周辺

境港駅から水木しげる記念館の間、約 800mの区間に妖怪のオブジェなどが配置されており、沿線には、数多くの飲食店や物販店（お土産品）などが立地している。令和 6 年は水木しげるロードの来園者数は約 200 万人、水木しげる記念館は約 18 万人（1-3 月は休業）となっている。



駅前広場（オブジェ）

水木しげるロード（オブジェ）

沿線の商店

水木しげる記念館

2）由良（コナン）駅周辺

由良（コナン）駅から道の駅大栄と一体的になった青山剛昌ふるさと館の間、約 1,300m区間は、コナン通りとして、ちょっとしたオブジェなどが設置されている。駅までの中間地点にコナンに関する物販店や飲食店がある米花商店街がある。北側の沿道は田畑になっており、南側の沿道は住宅や事業所になっており、物販店は少ないが、2～3 店舗の喫茶店が立地している。

令和元年度の青山剛昌ふるさと館の来場者数は約 22 万人。

オブジェ

沿道の喫茶店

由良（コナン駅）

米花商店街

コナン通り（北側）

青山剛昌ふるさと館

3）出雲市駅周辺

出雲市駅から出雲市役所の間の 500m区間は、国土交通省のシンボルロード事業で整備された所で、幅広歩道（7m）や交差点に公共広場があり、各種のイベントに対応できる道路・広場空間が整備されている。また神話に関するオブジェが設置されている。

中心市街地の商店街エリアではあるが、イベント時以外の日常的な利用はそれほど多くなく、沿道の商店は比較的出入がある状態である。また、市役所には芝生の市民広場があり、休日には親子連れがボール遊びなどをしている。

イベント利用（沿道オープンカフェ）

イベント利用（交差点広場）

神話のモニュメント

市役所の芝生広場

4）大分市駅周辺

大分市の北側には、大型の屋根と大型映像を備えた祝祭の広場がある。休日・祝日を中心に各種のイベントなどが開催されている。また平日の利用促進を図るために、ランチボックスの販売やチャレンジ企画が開催されている。

南側には、市民ホールと図書館等が一体的になった複合施設が立地しており、その前面には幅100m・長さ444mのシンボルロード「大分いこいの道」があり、緑溢れる芝生広場で市民の活動拠点でにぎわいや憩いの場として親しまれている。

祝祭の広場

コンテナショップ

ホルトホール公園（イルミネーション）

ホルトホール公園（遊び空間）

1-1-2. 神楽関連施設に関する事例

1）神楽会館

大分県豊後大野市にある神楽をはじめとする各種公演を行っている神楽会館で、公民館と一体的な施設で、288 席（480 ㎡）の多目的ホールがある。多目的ホールでは年間 125 日、約 7,200 人が利用。可動席ではあるが、席を収納した状態は、上記のうち 9 回、450 人程度で吹奏楽などでの利用。御嶽神楽をはじめとする地域の神楽公演は年間 12 回で、約 1,840 人が観覧。道の駅や清川支所に隣接した場所にあり、駐車場は豊富にあった。

また、ホールのホワイエを活用して神楽面などが展示してある。

ホワイエの展示

神楽会館の外観

神楽上演の様子

神楽会館の客席（可動式）

県道沿いのモニュメント

2）吉備高原神楽民族資料館

岡山県井原市にあり、祖先から伝えられてきた備中神楽をできるだけ本来の姿に近い形で後世に伝えてゆくため、平成 2 年 7 月に「中世夢が原」の入口に整備された施設。ここには、昭和初期の神楽面、陣羽織などの衣装をはじめ本格的な神殿（こうどの）を展示しており、「民俗文化財備中神楽伝承研究会」の活動拠点として使われている。

資料館の入場者数は定かではないが、神殿では年間 8 回の公演で約 300 人が鑑賞、子ども神楽等の利用で 60 回、1,000 人の利用がある。隣接する中世夢が原のお祭り広場で、年 1 回 1,000 人規模の神楽大会が開催されている。

中世夢が原は、鎌倉から室町時代にかけての吉備高原一帯に見られたむらのようすを絵巻物や発掘資料をもとに、時代考証により再現したもので、園内は実際に当時と同じ工法で家を建て、当時使っていた道具や民具をそろえ（作り）、中世の営みをそのままに再現している。藍染めや竹とんぼづくりなどの体験もできる。年間利用者数は約 12,500 人。

吉備高原神楽民族資料館の外観

資料館内の神殿

資料館内の展示スペース

中世夢が原内の三斎市

3）神楽門前湯治村

神楽門前湯治村は、広島県安芸高田市にある天然温泉をはじめ、格子造りの旅籠屋や湯治宿、お食事処、茶店などが通りに軒を連ね、幼い頃に舞い戻ったような街並みで構成されている。その一角に神楽観劇のための専門のドームや寄席の雰囲気が楽しめるかむくら座や神楽について学んだり、神楽グッズが購入できる神楽資料館がある。また、神楽面の絵付け体験などをすることもできる神楽体験館・和楽がある。

年間利用者数：97,500 人

神楽ドーム

かむくら座

街並みの様子

神楽資料館内の展示

神楽資料館内の展示

神楽体験館・和楽

1-1-3. まちなか憩い空間(P-PFI)に関する事例

1) 福山中央公園

広島県福山市の中心部に位置する公園で、中央図書館に隣接しており、芝生広場やばら花壇などもあります。2021 年 5 月に公園をリニューアルし、民間事業者によって、公園内にレストランや休憩スペースとなるあずまやなどが新たに整備されている。

定期的に市民参加型マルシェなどの民間事業者とコラボしたイベントや中央図書館と連携したワークショップや絵本の読み聞かせなどが行われている。

P-PFI で整備されたレストラン

芝生広場・レストラン・中央図書館

中央区園配置図

久松通り(美装化・無電柱化)
(ウォーカブルな通り)

2）イケ・サンパーク

東京都豊島区にある「としまみどりの防災公園」（通称：イケ・サンパーク）は、区内最大級のオープンスペースがあり、日常時は憩い、スポーツ、賑わいの創出等に、非常時は避難場所やヘリポート、災害用物資の集積所として活用される。その他にも、防火樹林帯や井戸水を使用したトイレ等、「いつも」と「もしも」の両面に対応した設備を多く兼ね備えられている。

カフェが併設されているとともに、オープンスペースの周辺の「KOTO-PORT」という小型キャビン型の店舗に様々な飲食物を提供するお店が出店している。また、毎週末、園内でファーマーズマーケットが開催され、旬の野菜や果物を農家さんから直接買える。

また隣接して、障がいのある子もない子も一緒に遊べる「インクルーシブ公園」の第一歩として整備された「としまキッズパーク」がある。予約制で 1 時間の完全入れ替えで運営されている。

併設のレストラン

KOTO-PORT の様子

芝生広場と休養施設

としまキッズパーク